

茨城大学学報

第305号

平成24年10月～平成24年11月



I B S茨城放送による『茨大1dayスタジオ～学園祭でJump Up!』
でインタビューを受ける学生たち（水戸キャンパス・茨苑祭）

INDEX

- ◆ 「2012年度 グッドデザイン賞」を受賞
- ◆ 職員採用内定通知書交付式を実施
- ◆ 第22回目の「国立大学理学系学長会議」開催
- ◆ 第7回茨城大学同窓会連合会総会及び懇親会を開催
- ◆ 文部科学省優秀教員による授業研究会を開催
- ◆ 「茨城県高等学校長協会との連絡協議会」を開催
- ◆ 平成24年度永年勤続者表彰式・懇談会を開催
- ◆ 「日本-ASEAN 大学国際連携教育ワークショップ」を開催
- ◆ （株）筑波銀行との連携協力にかかる協定調印式の開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 「2012年度 グッドデザイン賞」を受賞

本学では、このたび「天心・六角堂復興プロジェクト」の活動で「2012年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞いたしました。

「天心・六角堂復興プロジェクト」は平成23年3月11日の東日本大震災に伴う大津波により流失した「六角堂」（登録有形文化財）を再建するために天心遺跡の管理者である本学が発足させたプロジェクトです。



再建にあたっては、「岡倉天心記念六角堂復興基金」を設立し、国内外の多くの方々には呼びかけると共に茨城県建築士協会の協力を仰ぎ、多才な専門家たちと様々な角度から創建当時の六角堂の検証を行い、「天心の想いを込めた創建当初の姿に復元する」という復元方針のもと、各方面の協力を得ながら再建を進め、平成24年4月17日竣工を迎えることが出来ました。

今回の Good Design 賞では特に単なる復元という枠を超え、創建当初の天心の精神をも読み取ることで、被災した多くの人々に勇気や希望を与え、地域振興の力に繋がったことが高く評価されました。「天心・六角堂復興プロジェクト」は引き続き、震災・復興の記録を後世に残すための記念館の建設、五浦地区の文化施設の環境整備等を視野に入れながら、天心遺跡を中心とした文化財の維持管理に努め、地域の文化と教育の向上に寄与してまいります。

なお、「天心・六角堂復興プロジェクト」は平成24年11月23日（金）から東京ビッグサイトで開催された受賞発表展「グッドデザインエキシビジョン2012」に出展されました。

グッドデザイン賞 2012

名称：「天心・六角堂復興プロジェクト」

デザイナー：茨城大学 学術企画部社会連携課

コメント：

再建された六角堂は、天心に熱い思いを抱いた多くの方々のご支援の基に創建当時の姿に蘇りました。五浦復興のシンボルとして元気と勇気を与え地域振興の力となることを期待しています。天心の記憶、大震災の記憶を確認する場所として天心遺跡の果たす役割は大きく、六角堂再建は新たな一歩と考えております。



天心・六角堂 復興プロジェクト

茨城大学
Ibaraki University

◆ 職員採用内定通知書交付式を実施

平成24年10月3日（水）、来年4月に採用予定の事務職員、技術職員採用内定者の採用内定通知書交付式を実施しました。

これは、採用内定者に対し、大学への理解を深めてもらい、かつ、採用内定者同士の相互交流を目的としたものです。

採用内定者は、山本理事（総務・財務担当）から採用内定通知書を交付され、歓迎の挨拶を受けた後、引き続き、今年度に採用試験を受け、本年8月に採用されている新採職員も加わり、参加者全員でiPadを使用し、文部科学省のホームページに掲載されている「大学改革実行プラン」を閲覧しながら、国立大学法人を取り巻く様々な状況についての解説や、現在、文部科学省が進めている「個々の国立大学における学部・研究科ごとのミッション再定義」などタイムリーな話題にも触れ一同、熱心に耳を傾けていました。



挨拶する山本理事

その後、山本理事、総務部長、人事課長出席のもと、先輩・若手職員も加わり自己紹介も兼ねつつ、和やかに懇談をしながら昼食を取り、午後からは、先輩・若手職員等と大学職員の業務内容、職場の様子や雰囲気、社会人となるまでの準備等について懇談形式による質疑応答を行いました。

内定通知書交付式当初は緊張していた採用内定者もすっかりうち解け、職員達へ積極的に質問するなど、大学職員の仕事ぶりや職場について理解を深めることができた様子でした。



先輩・若手職員等と採用内定者の懇談・質疑応答

◆ 第22回目の「国立大学理学系学長会議」開催

平成24年度国立大学理学系学長会議が、10月5日（金）、6日（土）に本学で開催されました。この会議は、理学系出身の国立大学法人の学長及び大学共同利用機関法人の機構長が、共通する課題等について協議するとともに、親睦を深めるため、毎年実施しており、今年で22回目を数えます。

会議の初日は、池田幸雄茨城大学長を議長として、「国立大学の再編・統合問題」、「大学改革実行プランの進捗状況」など国立大学を取り巻く環境が厳しさを増す中、国立大学が果たすべき役割について活発な意見交換が行われるとともに、各大学での取組状況が報告されました。続いて、高萩市にある、茨城大学宇宙科学教育研究センターを訪れ、宇宙電波望遠鏡や学習施設などを視察し、天体観測など宇宙科学教育に関する理解を深めました。

また、2日目には、茨城大学五浦美術文化研究所を訪れ、昨年の東日本大震災時の津波により流失し、この4月に創建当時の姿に再建された「六角堂」を見学し、再建の指揮を執った三輪五十二特命教授の説明に熱心に聞き入っていました。この2日間の会議は、今後の各大学等の運営に大変有意義なものとなりました。

【参加大学長等】（敬称略）

△宮城教育大学長：見上一幸△群馬大学長：高田邦昭△総合研究大学院大学長：高畑尚之
△愛知教育大学長：松田正久△自然科学研究機構長：佐藤勝彦△情報・システム研究機構長：北川源四郎△茨城大学長：池田幸雄



会議の様（中央は議長役の池田茨城大学長）

◆ 第7回茨城大学同窓会連合会総会及び懇親会を開催

平成24年10月6日(土)、本学学生会館(茨苑会館)において第7回茨城大学同窓会連合会総会が開催されました。

総会は、久保田益充会長の挨拶に始まり、3つの議事 ①平成23年度事業及び会計報告 ②平成24年度事業計画及び予算 ③平成24・25年度役員 について、佐久間代表幹事及び事務局から説明があり、審議の結果、満場一致で承認されました。また、各学部同窓会から活動報告がありました。



総会の様子



挨拶をする久保田会長

総会後には、会場を茨苑会館「レストランSHIEN」に移して懇親会が開催され、茨城大学同窓会連合会、各学部同窓会、職域・地域同窓会及び茨城大学関係者、総勢38名が出席し、臼井新会長及び池田学長の挨拶、神永副学長からの大学の近況報告、並びに職域・地域同窓会からの活動報告など、終始和やかに情報交換を図ることができました。

最後は、参加者全員で茨城大学校歌を斉唱し、今後も同窓会と大学が密接な連携を保ちながら、活動していくことを祈念して閉会となりました。

平成24年度役員

名誉会長	池田 幸雄	(茨城大学学長)
顧問	田代 尚弘	(茨城大学副学長)
〃	神永 文人	(茨城大学副学長)
会長	臼井 敏雄	(多賀工業会会長)
副会長	土田 惣一	(文理・人文学部同窓会会長)
〃	堀川 賢壽	(教育学部同窓会会長)
〃	久保田益充	(理学部同窓会会長)
〃	赤塚 尹巳	(農学部同窓会会長)
代表幹事	大貫 仁	(多賀工業会理事, 幹事長)
幹事	糟谷 政和	(文理・人文学部同窓会幹事長)
〃	佐藤 瑛一	(教育学部同窓会幹事長)
〃	山村 靖夫	(理学部同窓会常任幹事)
〃	栗原 和美	(多賀工業会理事)
〃	黒田 久雄	(農学部同窓会幹事長)
会計監事	長谷川守文	(農学部同窓会幹事)
〃	佐久間 隆	(理学部同窓会常任幹事)

謝辞を述べる白土教諭

◆ 文部科学省優秀教員による授業研究会を開催

文部科学省優秀教員による授業研究会（第1回）が、10月24日（水）に教育学部に本年度新設された模擬授業室において行なわれました。教育学部附属教育実践総合センターと英語教育講座共催の同研究会は、参観者をともなう模擬授業とその後の質疑応答の2部構成で開催されました。

前半の模擬授業は、文部科学大臣から優秀教員として表彰をうけた大洗町立南中学校教諭平野紀英子氏と同校 ALT フレデリック・モートン氏が、授業に参加した茨城大学の学生約30名を中学生2年生に見立てて行ないました。授業は実際の授業の2回分を圧縮したものでありましたが、そこで披露された生徒の自発性を引き出す工夫の数々は、参加者にとって刺激的で大いに参考になるものであったようで、「自分が中学校のころにこんな授業を受けられていたらと思う素晴らしい内容だった」という声が授業後に聞かれました。

後半の質疑応答も、予定時間を超過するほどに積極的なやりとりがあり、たいへん盛況な中、閉会となりました。

なお、研究会で使用した教育学部模擬授業室は、小・中学校の実際の教室を再現した教育実践の本格的シミュレーション・ルーム（40名収容）で、教材教具作成室も隣接しています。本年度から運用が開始され、今後のさらなる活用が期待されています。



模擬授業を行う大洗町立南中学校教諭 平野紀英子氏

◆ 「茨城県高等学校長協会との連絡協議会」を開催

10月25日（木）、本学学生会館（茨苑会館）において「茨城県高等学校長協会との連絡協議会」を開催しました。

この協議会は、例年、相互の近況等を報告するとともに、本学と地元高等学校の教育活動の充実、また高大連携の推進を図るために開催しており、昨年は震災対応等により日程調整がつかず会議形式での開催はできなかったものの、今年は15校の県立・私立高等学校長及び本学関係者16名の出席のもと、開催されました。



挨拶をする田代尚弘教育担当副学長

協議会では、田代尚弘教育担当副学長の挨拶に始まり、早川源一茨城県高等学校長協会長の挨拶に続き、田代副学長からの協議題「高大連携による「学びと倫理的・社会的能力」の質的向上についてーその現状と課題ー」についての趣旨説明の後、出席した各高等学校長及び本学関係者から積極的な発言がありました。またこのほか、本学「就業力支援」カリキュラムの取り組みや、高校、大学を通じたキャリア教育の必要性などについて活発な意見交換が行われました。

これらの協議により、近年の社会環境を踏まえた生徒・学生指導のあり方や、双方向性のある高大連携の方法の模索など、共通理解が図られ、今後具体的な方策を検討しながら高大連携を推進することが確認されました。



協議会の様子

◆ 平成24年度永年勤続者表彰式・懇談会を開催

永年勤続者表彰式が平成24年11月22日（木）、事務局第2会議室で行われ、役員、副学長出席のもと、池田学長から被表彰者一人一人に表彰状が手渡され、あわせて記念品が贈られました。

永年勤続者表彰は、永年（勤続20年）にわたり勤務し、職務に精励された教職員を表彰する制度で、本年度対象となる被表彰者は8名でした。

表彰式においては、池田学長から祝辞として、永年の労へのねぎらいと、今後の活躍への期待が述べられ、これに対し、被表彰者を代表して教育学部附属特別支援学校小学部主事白土教諭が謝辞を述べられました。



謝辞を述べる白土教諭

表彰式に引き続き、昼食を取りながら懇談会が開催され、理事からも祝辞をいただき、また、各被表彰者からの挨拶が行われるなど、終始和やか雰囲気の中で歓談が行われました。



表彰式後の記念写真

被表彰者（50音順、敬称略）

石川豊（附属小学校[教諭]）、宇野久美子（附属特別支援学校[教諭]）、菊地耕（附属中学校[教諭]）、櫻井重範（財務課[職員]）、白土久江（附属特別支援学校[教諭]）、菅谷香（留学交流課[職員]）、鈴木和美（人文学部事務部[職員]）、根田剛彦（学術情報課[職員]） 以上8名

◆ 「日本-ASEAN 大学国際連携教育ワークショップ」を開催

21 世紀の大学国際化の一環として、アジアの大学との教育、研究交流の重要性が増しており、本学でも ASEAN 諸国の大学との間で様々な連携教育の実績を積み重ねてきました。

特に、本学農学研究科とインドネシア 3 大学との間で、2011 年以降、順次大学院修士課程のダブルディグリー・プログラムの協定を結び、学生交流を開始しています。また、タイのプーケット・ラチャパット大学との間では、2009 年以降、大学院サステナビリティ学教育プログラムの一環として国際実践教育演習（タイ・プーケット）を共同で開講しており、ベトナムのハノイ科学大学とは、気候変動や自然災害について密接な共同研究を行っています。

こうした国際的な連携教育・共同研究を一層強化するために、11 月 22 日（木）に茨城大学水戸キャンパスにおいて「日本-ASEAN 大学国際連携教育ワークショップ」が開催されました。

本ワークショップには、日本の 5 大学・研究機関と ASEAN 諸国 8 大学（インドネシア 3、ベトナム 1、タイ 3、スリランカ 1）の教育担当者による合計 13 の教育研究機関から約 50 人の参加があり、それぞれの国際連携教育の紹介を皮切りに、今後進めていく上での方向性・課題について活発に議論を行い、連携すべきテーマ、専門性と俯瞰性のバランス、教育環境の整備、教育プログラムの持続可能性、多層的な連携教育の方法などに関して、率直な意見交換が行われました。最後に、連携教育を具体化すべく同様のワークショップを今後も開催することを確認して閉会となりました。



ワークショップに参加した各国の関係者

◆ (株) 筑波銀行との連携協力にかかる協定調印式の開催

本学では平成 24 年 11 月 30 日(金)に、水戸キャンパス内において株式会社筑波銀行との連携協力にかかる協定調印式を行いました。

本協定は、筑波銀行と茨城大学とが相互に連携して、それぞれが保有する資源・情報を有効に活用し、地域の発展及び発展に資する人材の育成に寄与することを目的として結ぶもので、当日は、筑波銀行から藤川雅海取締役頭取など 5 名が来学し、本学からは池田幸雄学長をはじめ関係者 5 名が出席しました。

調印式は、終始和やかな雰囲気の中で行われ、藤川取締役頭取からは、「この 4 月に東日本大震災による津波の流失から復興した茨城大学が管理する六角堂等の観光資源化や、茨城大学が事務局を務める茨城県北ジオパーク事業(※)への協力から、県北地域の観光振興や地域貢献に繋げていきたい」と期待を述べられ、また池田学長からは、「従来の産学官連携から、筑波銀行と市民を加えた「産学官金民」の連携事業として、茨城県北ジオパーク事業等の諸活動を推進し、筑波銀行には自治体や市民とのコーディネーター役や、事業のPR等に期待したい」と挨拶されました。

また、今後の具体的な活動については、協議・検討して進めることをお互いに確認して、調印式は閉式となりました。

※ジオパークとは、ヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする自然の公園(大地の公園)である。貴重で美しい地質や地形を含めた自然遺産を保全するとともに、ジオツーリズムを通じて地球科学の普及や環境教育などを行い、さらにこれらの遺産を観光資源として活用して地域社会の活性化を目指す。



協定書を手記念撮影をする池田幸雄学長(左)と藤川雅海取締役頭取(右)